

踏み跡 <My Mountains>

伊豆	戸田峠から土肥峠へ縦走	No.300
----	-------------	--------



平成4年に箱根の山を歩き始めてから、その延長線上にある伊豆の山にも注目し始めた。平成7年に天城山を縦走したことでより身近に感じるようになり、地図を眺めていくつかのコースプランを検討してみた。若い頃には「伊豆の山なんか・・・」と思いましたが、天城山に足を踏み入れて以降「伊豆の山にも！」の気持ちが強くなった。

平成12年2月26日

4時に起床して手短かに朝食を食べて4時半に出発。新検見川発4時52分の電車に乗り東京駅へ。

6時に東京駅に到着。新幹線乗り換え口の売店で朝食用の軽い弁当と昼食用の多めの弁当に缶ビールを買って6時17分の発のこだまに乗車。車内で二度目の朝食を食べて少々うつらうつらしている内に三島に到着。

伊豆箱根鉄道は7時24分発修善寺行。電車は三島の町中を縫うように走り、やがて開けた田園地帯を走るようになり、伊豆仁田（いずにった）あたりから狩野川に沿うようになる。そして段々に伊豆の山並みが迫るようになって来る。

修善寺着7時59分。ダルマ山キャンプ場へ行くバスは9時半までないので、奮発してタクシーを使うことにする。狩野川から離れて西側の山に向かって走る。

ダルマ山キャンプ場入口に8時半に到着（タクシー代は3,100円）。曇り空で寒いのですぐに歩き始める。出発は8時35分。バス道から離れて北側の尾根に取り付いてゆっくりと高度を上げて行く。金冠山（816m）、時間は9時12分。大きな石塔が立つ山頂からは西伊豆の海岸線と沼津方面が良く見えるが富士山は残念ながら下半身だけしか見えない。稜線上だけが芝生のような草地で、左右（尾根の傾斜部）はクマザサと背丈の低い木の茂み。そして所々に馬酔木。南へ下るとすぐに戸田峠（へたとうげ）。今日はこの稜線をひたすら南へ歩いて行けば良い。稜線通しに走る登山道は車が走れそうな幅の広い道。尾根の腹を巻くように走る西伊豆スカイラインが登山道に近づいたり遠ざかったりを繰り返していく。



達磨山（981.9m）10時16分。一等三角点がある頂上は小雪がちらつき始めて肌寒く長居はできない。（左写真：達磨山から駿河湾を望む）古稀山・伽藍山と味のある名前の山が続くのが楽しい。

伽藍山（867.4m）、11時。そろそろ腹が減って来たがもうひといき。船原峠の少し手前にある売店の横で風を避けて昼食。広く深そうな駿河湾の広がりを見下ろし

での昼食は絶好の場所と言いたい所だが、またしても小雪がちらつき始めて食事を摂っても体が温かくなってこない。

船原峠12時10分、風花が舞ったり本格的な雪として降ってきたりの繰り返して、「冬も暖かな伊豆」のイメージが壊れっぱなし。

峠から再び南へ登り返して棚場山（753.1m）。今度は薄日が差してきた、気まぐれな空だ。

さらに南へ下ると吉奈峠・南無妙峠と峠路が続き、土肥峠に13時50分に到着。土肥峠は鉄塔峠とも言われ

踏み跡 <My Mountains>

るらしい。おそらく船原峠にも土肥峠という別名があることから、区別するためにこんな名前が付けられたのかもしれない。西側を見下ろすと土肥の集落と駿河湾にそそぐ山川の蛇行が美しい。

この先に駒を進めると下山路の関係で時間が遅くなりそうなので、今日の縦走はここまでとして、持越鉾山へ下ることにした。

谷沿いにしばらく下ると急傾斜の林道になり、程なくして持越鉾山に到着。途中で採ってきたフキノトウは今日のお土産。時計を見ると 14 時 30 分、ようやく日が差してきた。修善寺行のバスが日に 5 本走っているようだが、この時間帯は全く縁がない。

持越川に沿った谷間の寒々しい道を湯ヶ島へ向かって歩く。

湯ヶ島温泉口 16 時 10 分。修善寺行のバスは 16 時 43 分発。修善寺駅に 17 時 40 分着。(バス代 670 円)

電車を待つ間に駅前で天ぷらそばを食べて温もりを回復。18 時 43 分の電車に乗り、三島から新幹線。

新幹線の中で缶ビールを飲んで本日の打ち上げ。東京駅に 20 時 10 分に帰着。

今年初めての山歩き。まさか伊豆の山で雪に出会うとも思っていなかったなので、その意外さが楽しかった。伊豆半島のやや西側を南北に走る長い稜線は、内陸と西伊豆とをつなぐいくつもの峠路と味わいのある名前の山の連続が面白い山旅の一日だった。

以上